的Hardyを施行．骨浸潤を認めた．再度X+23年からACTH，Cortisolが上昇し，X+24年目にMRIで右海綿静脈洞（CS）周囲に微小な造影遅延域を認めた．静脈SamplingでCRH負荷前から右CSでACTHは2000 pg/mL以上と著明高値だった．術前画像3Dシミレーションで手術検討し，今回3回目の摘出も安全にできた．

【考察・結論】本症例は骨浸潤や，3回目の術前静脈Samplingで初回治療前に比べACTHが異常に高く生物学的活性が高まっている．ACTH産生下垂体腺腫は下垂体癌へのTransformする症例報告があり，今後も腫瘍再発のみならず悪性転化についても慎重に経過を見る必要がある．

4　ソマトスタチンアナログ治療先行の先端巨大症

米岡有一郎・小松　健*，小原　伸雅*
関　泰弘・秋山　克彦
新潟大学　地域医療教育センター
魚沼基幹病院　脳神経外科
同　魚沼基幹病院　内分泌・代謝内科*

【背景】先端巨大症の治療は，ソマトスタチンアナログ（SSA），ドーパミンアゴニストに加えてGH受容体拮抗薬が使用できるようになり，選択肢が増加しコントロールが容易になったが，治療の第一選択は手術療法である（本稿執筆時）．情報化社会において，患者自ら薬物療法を希望する場合に遭遇する．

【目的】治療アルゴリズムの意義と実践を再考する．

【症例提示】初診時74歳女性．患者の希望でSSA治療を選択するも副作用により断念し，手術治療により良好な治療経過を得た．

【考察】患者希望によりSSA治療を選択したものの，結果として治療アルゴリズムに従った経過のほうが良好であった．当科における患者への初診時治療情報提供を見直す契機となり，今後の情報提供を改良する示唆を得た．

【結語】患者が適切な治療を選択できるような情報提供も治療に携わる者の責務である．また治療プロセスの軌道修正に際して，診療科間の連携が大切である．

5　プランルカスト水和物による糖尿病腎症における尿中アルブミン排泄量の減少効果

中村　宏志
中村医院　内科

【目的】プランルカスト水和物の糖尿病腎症に対する効果について検討する．

【対象と方法】当院に通院中の2型糖尿病患者（腎症合併）を対象に，インフォームド・コンセントを得た上で（保険適応外であることについても同意を得ている），プランルカスト水和物450 mgを6か月間投与し，3カ月毎に尿中アルブミン排泄量を測定した．

【結果】プランルカスト水和物の投与により，尿中アルブミン排泄量は有意（$p < 0.01$）に減少した．

【考察】プランルカスト水和物により，尿中アルブミン排泄量は減少したが，その効果には個人差があるようで，今後十分に検討する必要があると思われる．

【結論】プランルカスト水和物は，糖尿病腎症に効果があるようだが，効果には個人差があり，また保険適応外であるため，慎重に用いるべきである．

6　プランルカスト水和物により完成鼻炎の症状が改善した高血圧症・脂質異常症の1例

中村　宏志
中村医院　内科

症例は61歳，男性，内科医．

55歳（平成24年）から，鼻汁・鼻閉を自覚し，少しずつ症状が悪化した．エピナスチン，葛根湯加川芎辛夷，クラリスロマイシン内服で治療．症状増悪時には，吸入ステロイド薬を用いていた．

【経過】患者にインフォームド・コンセントを得た（保険適応外であることも含めて）上で，プランルカスト水和物450 mgを追加投与した．開